

埼玉岳連

埼玉県山岳連盟
埼玉岳連報 第28号

発行者 田中 文男
発行所 埼玉岳連事務所 村岡正己方
〒340-0211
鷲宮町鷲宮団地1-28-407
編集人 岩井田 正昭
発行部数 1600部



ナンガバルパッド、BCで全員集合

【第六十二回国民体育大会

関東ブロック大会山岳競技から】

今年の秋田『わか杉国体』の関東地区予選会である山岳競技は、七月二十八日(土)～二十九日(日)に埼玉県山岳連盟が主管で開催した。

競技は、一般的な個人戦とは違い、一都七県の代表が本戦出場権を争う団体としての戦いです。

この大会は、今季限りで国体の山岳競技から、縦走種目が無くなるということでも注目されました。そのため縦走競技には、例年に無い熱いレースの予感が漂って…。

二日間に渡る“山岳競技大会”が始まりました。

初日は、加須で開始式の後、クライミング競技からスタート。ほぼ予想通りの完登者を出したが…。近年競技の普及に伴って、選手のレベルも大分高くなり、僅差で優劣を争うケースも多く見受けられます。

今回も正式発表まで、何回もビデオを再生し、判定が正しいか時間をかけて複数人でチェックをしております。最近、選手の関係者でもビデオ撮影をする人が、益々増えてきています。そのことも相俟って、より判定に対しては正確で厳粛な対応が、審判側に求められています。微妙なところを、瞬時に判断しなくてはならない大変さは常にありますが、そのこと自体は特に問題ではありません。

ただ困るのは、選手や監督が競技に夢中のためか、或いは言えど何とかなると考えてのことか、本心は定かではありませんが、興奮して一切聞く耳を持たない「ビデオを観てみる」「ジムのコンペでは違う」と言うような態度です。

このような、一点張りの姿勢はスポーツを愛する人として、決して感心できません。一例ですが、ビデオにしても撮る方向によって、判断材料にすることは難しい場合もあるでしょう。

選手・監督は、競技の向上を目指すだけでなく、ルールも十分勉強して、大会の趣旨を熟知の上で参加して欲しいものです。

競技内容としては、この暑い夏場の大会にも関わらず、ナイスクライミングをした選手が多く、とても感動しました。なお、今回は見送られたが、アイソレーションルームにトレーナーの同行要望があります。

来年からは、ボルダが加わることもあり、受入れに向けて早期に規則等を検討・整備する必要があると感じています。更に課題として、ビレイヤーが最初のプロテクションの下の位置で、確実なビレイをするよう徹底して欲しいという声も。

私は、フールを止める現場を観ていないため、詳しいことは承知していません。居たときは、特に問題は無かったが、ただ、万が一にも、自信過剰や慣れからくる慢心では困るのだが…。

二日目は、小鹿野観音山の縦走競技です。

競技中は、心配していた雨も降らずに、暑さとの体力勝負ではなかったでしょうか。縦走競技は、今年で終わりということで、当番県としてもかなり力を入れて整備してきました。

早朝、先導のルート確認では、以前に入れた砂や砂利が乾燥して浮き、滑る心配をしたくらいです。夏場の大会なので熱中症対策と、転倒による怪我を何より案じていました。宿舎の朝食時間との兼ね合いで、予定を三十分遅らせて(監督会議で周知)競技を開始。

この暑さの中で、一時間を切る選手が二名出たことは大変な驚きです。

しかし、梅雨明け前で暑さ慣れしていないためか？ゴールした選手が次々と、医師や看護師のお世話になって、いたのも実態です。

水分補給が、明暗を分ける一つの鍵となったことでしょう。そして、競技も終盤に入ったころ、成年女子の救護要請が本部に入り、医師と関係者を現地に向かわせました。情報も、携帯電話と無線で錯綜。かつ、次々とゴールする人もいて、一時混乱する場面もありました。

この件は、結局救急車を呼んで病院に搬送、その後間もなく本人が正気を取り戻し解決したのでした。

彼女は、国体最後の年の縦走選手ということで頑張り過ぎて、途中の水分補給も十分ではなく、脱水状態だったようです。でも、それほど大事に至らなくて良かったです。表彰式は、小鹿野中学校体育館で行われました。

通過認定証を受けた都県は、本戦で関東の代表として、ぜひとも頑張ってもらいたいと思います。

国体予選会ということで運営していく訳ですが、通常の大大会と違って、参加人数以上に気を使う大会でした。

例として…。我が埼玉岳連も他の都県岳連に説明が会場直ぐ近くだった。これは、大会の運営に携わる、旅行会社(JTB)の余計な配慮?から。

これには、我が埼玉岳連も他の都県岳連に説明が出来ないとして、JTBにクレームを入れて変更しました。

選手には、一都七県で同一宿舎がベターですが、受け入れるホテルや旅館側の都合で不可能なこともあります。

今回の場合は、旅行会社からの手配や連絡に、主管岳連が関与出来なかったことによる見解の相違だと思えます。もともと、大会運営を簡単に出来ないものでしょうか?

次に当番県が回ってくるのは八年後です。競技はシビアで良いと思いますが、ホテルの予約や運営方法等は、出来るだけ簡素化して欲しいものです。

日本協や日山協の関係各位には、実情を踏まえた改善をぜひお願いしたい。

それと今回は、参議院議員選挙の投票日がズレて大会と重なったことで、会場の手配や関係者の諸々の調整

が難航したことも見逃せません。さすがに国政選挙ともなると、その影響を受ける人の多さに驚きます。

最後になりましたが、当番県ということで一月の現地調査から八月の精算報告まで、多くの人を要し時間を費やしました。それでも、決して役割分担や打合せ等が、十分だったとは思っておりません。

やることの段取りが上手く出来なくて、納得いかないまま終わった人も…。ラインマーカーや砂利を荷揚げした人、早朝からトイレ掃除をした人や深夜までゴミの後片付けをした人も…。私は、何人も知っています。

色々ありました。私は、何人も知っています。心より深く感謝を申し上げます。そして県外役員の方々にも、「今年は監督だからチョット楽だよ。来年は監督やったら?」等と何気無いそんな一言に励まされ…。

審判員の皆さま、遠方よりお出で頂き、誠に「苦労様でした。お蔭様で無事終わることが出来ました。」「山屋さん、関係者の皆さん、大変お疲れ様でした。ありがとうございます。」

いつか、この恩には報いたいものだと、気を引き締めております。何分、未熟者ですので、不手際な点はお許し願います。今は、何より終わったことに「安堵」しています。思いつくまま書いてみました。我が埼玉県は、秋田への出場権を残念ながら逃しました。

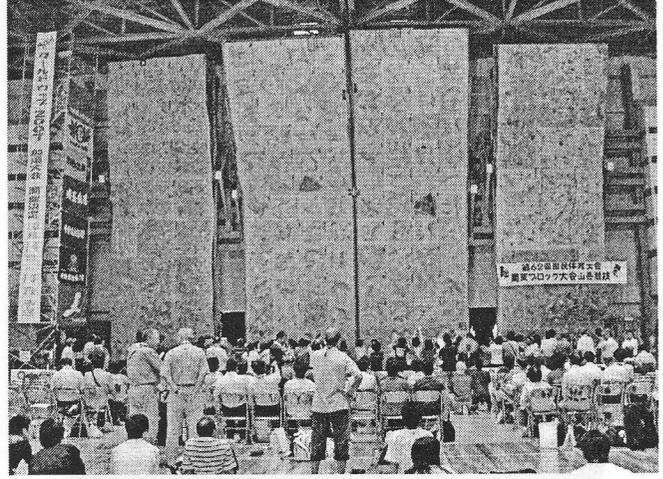
地元での予選会とあって、力が入り過ぎたのでしょうか? 『悔しい』『通過認定証を受けた都県の皆さん、おめでとございます。』本戦も、頑張ってください。

来年の関プロは、山梨県でリード&ボルダリングで開催されます。次回は、全種別で予選を突破し、本戦の大分県に行けるよう頑張れ!埼玉!

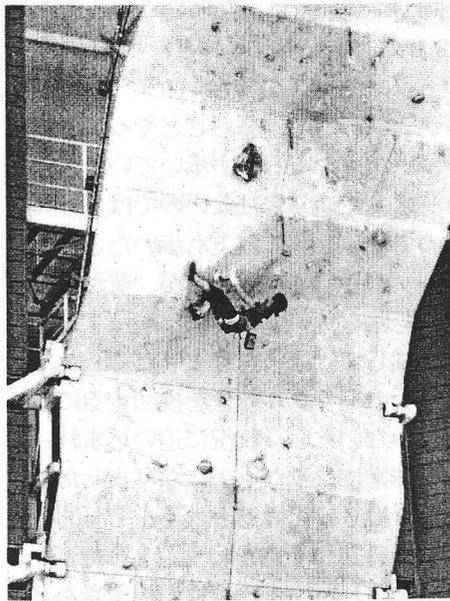
審判長 土屋正昭



ラストランとなった関プロ大会



オブザベーションが始まる



岡山・湯原クライミングセンターで4月28・29日に行われた「JFA日本選手権」で埼玉・尾上彩選手が女子で何と、他にはつきり差を付けての堂々の初優勝しました。

決勝の登りは核心の2カ所もショートカットすると言う鳥肌が立つ程のクレバーな素晴らしい登攀でした。この初優勝（日本一）は今まで最年少記録だった「小林由佳の13歳」を「尾上彩選手が11歳」で塗り替えた事になります。

また、埼玉・角田大樹は準決勝までは安間・堀に続く3位と好位置でしたが、決勝で失敗して7位でした。埼玉・門間希美は11位で決勝に残りませんでした。

(記：森下 健七郎)



優勝盾を抱えた尾上彩選手

【クライミング委員会 報告】

★クライミングコンペ報告・I

神奈川・秦野山岳スポーツセンターで6月2・3日に行われた「JMA第21回ジャパンカップ」で埼玉・角田大樹選手が男子で堂々の3位に入賞しました。前回の日本選手権7位の雪辱を果たしました。この結果を受けて2年に一度の「世界選手権(9/18・23スペイン・アビレス)」に出場する事に成りました。また、10月13・14日に行われるワールドカップ加須大会にも日本代表選手として出場します。また、女子では門間希美選手（不動岡高3年）も出場します。乞うご期待を！。皆さんの多数の観戦・声援をお願いします。因みに角田大樹選手は（今春鴻巣高校卒業・現早稲田大学1年在籍中です）

(記：森下 健七郎)

★クライミングコンペ報告・II

第62回国民体育大会

関東ブロック山岳競技【成績表】

1. 期 日 クライミング 平成19年7月28日
走 平成19年7月29日
2. 会 場 縦 走 加須市民体育館
小 鹿 野 町 観 音 山
3. 成 績 ◎通過圏

- 成年女子：◎1位千葉県、◎2位東京都、◎3位神奈川県
- 少年男子：◎1位栃木県、◎2位、神奈川県、3位東京都
- 少年女子：◎1位栃木県、◎1位群馬県、3位埼玉県、3位千葉県
- 個人成績
- 成年女子：C個人12位・工藤ゆり子
：T個人6位・藤田亜矢子
- 少年男子：C個人2位・関根 平
：T個人5位・長谷川正
- 少年女子：C個人3位・門間希美
：T個人6位・加藤由果

【審判長・土屋正昭、主任審判員・森 茂、赤松久宇、競技部長・村岡正巳】

2007 ナンガパルバット

BC・トレッキング報告



設置されたメリアルプレート

昨年夏、埼玉県岳連より派遣された「埼玉2006 ナンガパルバット登山隊」は登山活動中に小澤直宏副隊長を転落事故により失うという大変ショックで悲しい結末を迎えてしまいました。その後も小澤さんを知る人達の心の痛みは癒えることなく、涙に暮れる日々が続いていましたが、あの遠征から1年を機にベースキャンプを再訪する計画が持ち上がりました。これはもともと「ナンガパルバット峰を間近まで訪れてみたい」という小澤さんの御家族の御希望をかなえるため、遠征に参加した隊員がベースキャンプまで御案内するというのが話の始まりでした。この「ベースキャンプ訪問」に「メリアルプレート(慰霊碑)の設置」「セレモニー(慰霊祭)実施」を目的として加え、親族、遠征隊、遠峰山岳会、海外登山委員会、県岳連関係者、埼玉大学関係者の中から14名が有志として集い、今夏8月10日から8月21日までの12日間にわたり「2007ナンガパルバットBCトレッキング」としてベースキャンプまでのトレッキングが行われました。

まず結果から御報告すると、参加者14名全員が8月15日ベースキャンプに到着し、翌8月16日にプレートの設置、セレモニーの実施を行うことができました。スコープによる現地の搜索や情報の収集などは悪天候の影響もあり、これといった成果はなかったものの、当初の目的は果たすことができ個人的にもホッと胸をなで下ろした次第です。最終的には8月21日に全員無事に帰国致しましたが、参加者一人一人がそれぞれの思いを胸に、小澤さんの眠るナンガパルバット峰を直接訪れることができたことはとても意義深いものでした。みんなの心の中に小澤さんがいつまでも生き続けていることを、氷河に吹きわたる風が教え

てくれたような気がします。

さて今回のトレッキングは実にトラブルの多い旅でした。海外にトラブルはつきものと言いますが、今回は少々度を越えたものでした。まず8月10日の出発の日、我々は成田空港を飛び立つことが出来ませんでした。パキスタン航空の航空機が故障により北京から動けないということで、その日は空港近くのホテルに宿泊。翌日も空港で待ちに待たされ、実際に成田を飛行機が離陸したのは20:40。前日14:00のフライト予定から実に30時間以上の遅延は、そもそもタイトな予定を組んでいる我々の心を大いにくじかせ、前途多難な旅を宿命づけるなんともひどいオープニングでした。

現地では手配したコースターと呼ばれるマイクロバスを目的地まで飛ばしに飛ばす・・・

はずでしたが、カラコルムハイウェイが随所で土砂崩れ。車を降りて歩いたり、数時間の足止めをくったり、丸2日の過酷なドライブとなりました。8月14日のトレッキング初日も、スタート地点の村まで行くジープが待てど暮らせどやって来ません。全員でジープ道をトボトボ歩いていたときは「これはベースまで辿り着けないのでは」と真剣に悩んだものです。2時間以上も歩いたところでようやくジープがやって来ましたが、荷台に全員が立って乗り悪路を荒い運転で吹っ飛ばすジープに身の危険を感じずにはいられませんでした。

かくして乗り物のトラブル続きを挽回するには、我々の「足」しかないという状況に追い込まれ、トレッキングは非常に過酷なものになりました。通常BCまで登りに3日掛けるところを2日間で歩き通し、下り2日間の予定をわずか1日で下りきました。参加された方々の根性と山ヤさんとしての底力には心から敬意を表したいと思います。登りでは馬4頭を雇い、疲れた人から優先に交代で騎乗したものの、鞍のない裸馬は却って疲れることも多く、尻や内股を痛める人も出る始末。



ナンガパルバットを正面にみて一路BCへ

8月15日夕刻、全員無事BCに到着しましたが、高山病や下痢に苦しむ人もたくさん出ました。その日の夜はいきなりの降雪で、湿雪にBCのキャンピング用テントはひとたまりもなく、ひしゃげて潰され大騒ぎ。翌日天候は回復しましたが、今度はプレートの設置に大苦戦。タガネで岩をはつり、ジャンピングで孔を穿ち、プレートの孔とボルトの微調整、接着・モルタル埋め・ボルト締め。結局朝から夕方まで丸1日かかってしまいました。しかし満足のいく立派な仕事ができたとおもいます。それほどみんなが力を合わせてがんばりました。

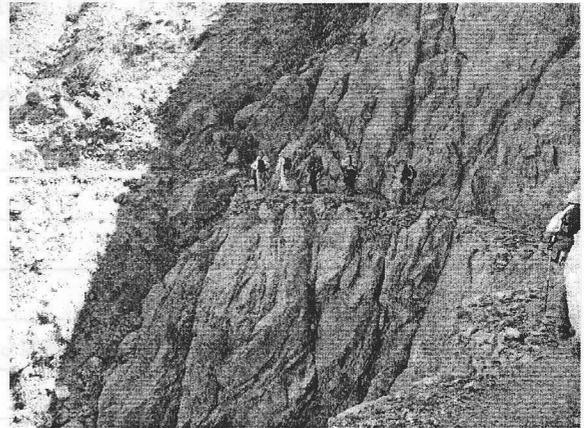
なんとか暗くなる前にセレモニー(慰霊祭)を始めることができた時は、本当にホッとしたものです。黙祷に続き一人一人線香を手向け、奥様と福田氏からお言葉を頂きそして献杯。小澤さんのために誰もがとっておきの酒をザックに忍ばせてきていて、小澤さんも一年ぶりのおいしい酒をたらふく飲んだはず。そして我々はただ涙、涙でした。最後は現地のガイドがイスラム教式の祈りを捧げてくれ、セレモニーを終了。誰もが心に残る良い式にすることができました。

その後も帰りのカラコルムハイウェイでトラックの立ち往生で足止めされたり、イスラマバードにやっと帰ってきたら夜中の23:00過ぎだったりいろいろなありました。極めつけは、帰りの飛行機もラホール空港で故障。夜中の0:00過ぎに飛行機から降ろされ、空港から遙か彼方のひどいホテルに放り込まれました。お湯が出なかつたりエアコンがなかつたり、トイレの水が流れなかつたり。パキスタン航空への我々のイライラや怒りも頂点に達した感がありました。なにしろほとんどの人が帰国翌日から仕事が入っています。それに間に合わないというのですから!20日(月)12:40到着の予定が、成田到着21日(火)朝7時過ぎでした。約18時間の遅延です。往復合わせて48時間以上の遅延というパキスタン航空には、今後余程のことが無い限り乗る人はいないような気がします。とにかく事故無く帰って来られたことが唯一の救いでしょうか。ラホールで見たTVニュースに那覇空港で炎上する中華航空の映像が流れたときは、何かを暗示されているようで背筋が凍りつきました。これを読んでる皆様にもけっしてパキスタン航空だけはお勧めできません。会社の対応やサービスも最悪です。今後パキスタンまでのフライトはタイ航空の御利用を是非お勧めします。

さて最後になりましたが今回もトレッキング隊の出発に際し、たくさんの方々に御協力を頂き、またお世話になりました。まずはこの場をお借り

して心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。また今後も慰霊関係の催しや現地での捜索などを継続していきますが、皆様の御迷惑や御負担とならない範囲で御支援・御協力をいただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

埼玉 2006 ナンガパルバット遠征隊隊員、
遠峰山岳会 天野 賢一



ブナル川に沿って廊下を歩く

【参加者】 敬称略

- | | |
|--------|----------------|
| 小澤登志江 | : ご親族 |
| CL福田 靖 | : 埼玉ナガパルバット登山隊 |
| 鳥 辰克 | : 埼玉ナガパルバット登山隊 |
| 天野 賢一 | : 埼玉ナガパルバット登山隊 |
| 藤井 大輔 | : 埼玉ナガパルバット登山隊 |
| 塩谷 壽子 | : 海外登山委員会 |
| 蛭川 幸榮 | : 海外登山委員会 |
| 伊藤 淳 | : 遠峰山岳会 |
| 黄 興光 | : 遠峰山岳会 |
| 山際登志夫 | : 遠峰山岳会 |
| 中館 敏子 | : 遠峰山岳会 |
| 平野 晃司 | : 遠峰山岳会 |
| 岩井田正昭 | : 埼玉県岳連・広報 |
| 鈴木 真澄 | : 埼玉大学WV・OB |



プレートを設置した大岩

【第20回県民総合体育大会】

コバトンクライミングカップ要項

- 1.趣 旨：埼玉県に在住・在勤しているクライミング愛好者の技術向上と交流
- 2.主 催：埼玉県教育委員会、(財)埼玉県体育協会、埼玉県山岳連盟、埼玉県高等学校体育連盟
- 3.後 援：加須市教育委員会
- 4.主 管：埼玉県山岳連盟・埼玉県高等学校体育連盟登山専門部
- 5.日 時：2007年12月16日(日) 受付8:30～9:00 競技開始9:45
- 6.会 場：加須市民体育館(〒347-0007 加須市下三俣590 ・0480-62-6124 Fax0480-62-4797)
- 7.参加資格：埼玉県に在住、在学、在勤及び県内の山岳会・クラブに所属している方
- 8.カテゴリー・競技方法

カテゴリー	競技方法
ミドル … レッドポイント 5・11a 以上	リード : 予選フライング・決勝リフト
ビギナー… レッドポイント 5・10d 以下	リード : 予選フライング・決勝リフト
ジュニア…中学生以下ビギナー・ミドルへの参加希望も可	リード : 予選フライング・決勝リフト
トプロープ部門	トプロープ: 予選フライング・決勝リフト

※大会趣旨によりジャパントアープ予選通過者は御遠慮下さい。

- 9.競技規則：FISC の定める競技規則による (一部異なる部分があります)。
- 10.参加費/人数：当日受付で納入して下さい (保険料含む)。先着 70 名まで。
一般 3,000 円 (但し埼玉県岳連会員証所持の方は 2,700 円)、高校生以下 1,500 円
- 11.申 込：別紙「申込書」に必要事項を記入の上、下記まで郵送または FAX にて送付してください。
〒344-0117 春日部市金崎 583 庄和高校 埼玉県山岳連盟 大倉至 宛
Tel048-746-7111, Fax048-718-1100,Mail (自宅) ih26534@ha.bekkoame.ne.jp
- 12.締 切：11月30日(金) 必着を厳守して下さい。
- 13.注 意：参加者の怪我等に付いては必要に応じて応急処置はしますが、その他の一切の責任は負えませんので、十分注意を払って下さい。

【埼玉県岳連・海外登山委員会】

創立10周年記念誌刊行記念

祝賀会のご案内

新秋の候、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、1996年3月、埼玉県山岳連盟改組に伴い、県内各山岳会の若手メンバーの呼びかけで、「海外登山研究会」が発足、以後5回の研究会開催の後、同年11月に「第1回海外登山委員会」が開催されて以来、10年が経過しました。その間、「埼玉県山岳連盟マカールーI峰登山隊1998埼玉、2001スペインテイク登山隊、埼玉2006ナンガパルト登山隊、(埼玉県山岳連盟創立50周年記念登山隊)」を出し、当初目標とした7000m・8000m峰に向けて足跡を刻むに至りました。このたび、海外登山委員会10年の節目にあたり、かねてから計画されていた3つの遠征隊の報告と海外登山委員会の活動をまとめた記念誌を発刊致します。つきましては、記念誌刊行に合わせ、3つの遠征隊の報告会兼記念誌刊行記念祝賀会を下記の通り計画いたしました。

お忙しいところではありますが、万障お繰り合わせの上ご来席賜りますようお願い申し上げます。

記

日 時 : 平成19年11月17日(土) 午後3時開催
会 場 : さいたま市民会館うらわ
浦和区仲町2-10-22 (浦和駅西口下車徒歩7分)
会 費 : 5,000円 ※記念誌を贈呈いたします。
参加ご希望者は10月末までに左記までご連絡ください。

連絡先 : 群馬県太田市粕川町甲522 加藤 富之

TEL&FAX 0276-52-1276

E-MAIL :punita@psksky.ne.jp

海外登山委員会 委員長 塩谷 壽子

海外登山委員会 創立10周年記念誌

編集委員長 加藤 富之

埼玉県山岳連盟 関係者各位 様

平成19年9月

埼玉県高等学校体育連盟登山専門部

部長 森下 健七郎

《平成20年度全国高等学校総合体育大会登山大会》

競技運営に関わる「役員」の協力のお願い

皆様におかれましては、日頃の岳連活動の前線でのご活躍、本当にご苦労様です。

また、平素は本登山専門部の活動に関しては何かとご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成20年7月に、高校生最大のスポーツの祭典「全国高等学校総合体育大会」

(愛称：彩夏到来08埼玉総体)が埼玉県内各地を会場に開催され、登山大会は秩父市・小鹿野町が会場となって行われます。

この全国高等学校総合体育大会を成功させるために、主管団体として埼玉県高等学校・登山専門部として全力で頑張っております。しかしながら、当専門部関係教諭及び生徒等の動員だけでは、必要な役員の全ては到底賄いきれません。

つきましては、埼玉県山岳連盟の会員の皆様から競技・運営役員として協力して戴ける会員の方々を募りたいと思っております。

大変、お手数をお掛け致しますが、理事の皆様にはご自分は元より、関係する会員の皆様にも、是非とも広く呼びかけて戴きますよう、特別のご配慮の程よろしくお願い申し上げます。

ご協力戴ける方は至急、埼玉岳連事務局・下記まで、ご連絡戴きたくお願い申し上げます。ご案内等の資料を送付させていただきます。

〒340-0217 北葛飾郡鷺宮町鷺宮 5-4-15 大倉 至

TEL0480-58-1507・FAX0480-38-8129・Eメール ih2653@ha.bekkoame.ne

『埼玉インターハイ登山 2001in 秩父・小鹿野』

記念Tシャツ・タオル販売のお知らせ

下記商品を埼玉県山岳連盟にて販売しております、是非ご利用ください。

TシャツはLL、Lサイズは僅少、M、Sサイズがあります。タオルは3色から選択ください。

販売価格はTシャツ・タオルともそれぞれ1000円です。ポロシャツも近日販売予定です。

問い合わせ先：高体連 大石智章（川口東高校）

Fax:048-290-1014

Email: oishi@kawaguchihigashi-h.spec.ed.jp

メールまたはfaxにてご注文ください。送料別

タオルのデザイン ロゴ

大きさ 1100mm×400mm

色調 イエロー

ブルー

ピンク



【県岳連平成19年9月理事会報告】

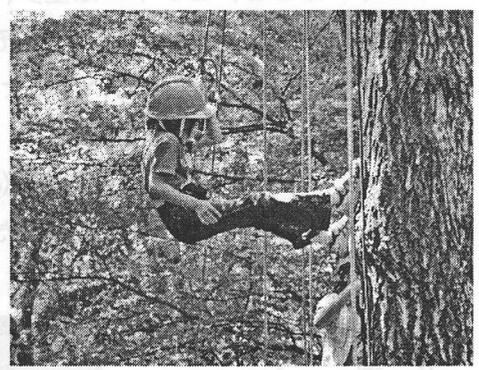
9月11日(火)午後7時30分、北本市文化センター
参加者：田中会長、森下副会長、村岡理事長、
理事：加藤(深谷)、堀江(桜草)、瀬藤(深谷)、
松井・小茂田・大倉・鎌田(高体連)、平沼(小川)、
天野(遠峰)、田中(大宮岳穂)、小高(熊谷アルム)、
熊谷(蓮田)、土屋(KSCCビナ)、計良(東部)、
斉藤(蕨ハイキング)、平塚(エコー)、萩原(大宮AC)、
石川(ボツシユ)、花原(川口)、加藤(川越)、
桜井(睦穂)、岩崎(戸田)、柳原(小鹿野)、
工藤(無名山塾)、長谷川(熊谷)、塩谷(大宮)、
岩井田(あゆむ) 順不同・敬称略30名

- 1. 開会挨拶 (村岡理事長)
- 2. 挨拶 (森下副会長)
- 3. 報告
- (1) 夏山レスキュー研修会・講習会 天覧山・7月21日、
22日(日)：参加32名 午前：机上講習 午後：岩場
でレスキュー技術習得・研修を行った。
- (2) 関東ブロック大会7月29日・30日(日)：
特に大きな問題もなく終了。協力有難うございました。
- (3) ナンガパルパッド・トレッキング報告：8月10日、
21日：飛行機の関係で凄いいハードスケジュールになっ
てしまったが、無事終了し現地にメモリアルプレートを設置
しました。
- (4) 第2回常任委員会8月29日(火)：資料

- 4. 協議
- (1) 関東ブロック大会総括
(a)準備(b)運営、特に問題は無かった(c)成績 は今一歩
だった。(d)その他、手元に領収証があれば至急、会計へ
精算してください。
- (2) WorldCup 2007in Kazo...10月13日～14日(日)
について：資料・メインスポンサー：八海山に決定、スタ
ッフの協力を。
- (3) 自然保護委員総会 11月3日～4日(日)
資料 各会では是非参加者を出してください。
- (4) 冬山遭難防止講習会 12月15日～16日(日)
資料 各会では是非参加者を出してください。

- (5) 県民大会「コバトククライミングカップ」
12月16日(日)：資料・県民総合体育大会ス
ポーツクライミング競技会「コバトククライミ
ングカップ」に名称変更となりました。
- (6) 平成20年度インターハイについて：
8月24日～26日・150名(高体連)で同コー
スを試登しました。一般登山とのギャップに驚かれ
るかと思いますが、お手伝いを宜しくお願いします。
- (7) 関東スポーツクライミング大会
11月23日(金)：資料 各会参加者希望の方は、
事務局・大倉へ連絡ください。
- (8) 各部からの報告等
- ①指導委員会：特になし
- ②国体委員会：9月9日スタート順決定。9月29日
監学会議。9月30日(日)～10月2日(火)北
秋田市・森吉山会場 成年男子：早田、奥宮、角田、
佐藤(監督) サポート：小田、役員：田中会長、
森下副会長、長谷川国体委員長。
- ③クライミング委員会：資料
- ④選手強化委員会：今年には成年
男子のみだが、縦走をメインに入賞(優勝)を狙う。
来年の大方には是非少年も出したい。
- ⑤遭難対策委員会：
日山協講習会2月上旬予定・秋田県・乳頭温泉
- ⑥自然保護委員会：福井県うさぎ岳が有料登山になる
との事。視察登山に参加(三ツ木)。
- ⑦海外登山委員会：資料・11月17日(土) 記念誌
刊行記念、創立10周年記念祝賀会を開催。
- ⑧ジュニア委員会：来年インターハイに協力をお
願います。別項に案内。
- ⑨広報委員会：埼玉岳連報28号・9月中発行予定。
- ⑩企画委員会：
(1)「チビツ子対象クライミング教室」：平山ユージ、
(2)「皆で11(イレブン)を登ろう」等のイベント
予定

⑪事務局
1. 閉会挨拶(田中会長)
※次回 常任理事会 10月23日(火) 午後7時30分
理 事 会 11月13日(火) 午後7時30分



木に話しかけながら下降中

樹高、約20mぐらゐの途中まで、クライミングロープ
を伝い、ブルージックで登り、トップロープで下降する。
10m程度の高さにあるテラスまで登り、木の上から見
た風景に『すごい景色、鳥になったみたい』と興奮。
写真撮影・吉野公民館 岡部様 提供

【編集後書】
プライベートではあるが、毎年恒例のチャレンジキャン
プの案内を川越中央公民館より戴き、最終日の8月22日
に参加した。予定では21日からだったが、ナンガBC・
トレッキングの飛行機トラブルで延着。都合で22日のみ
参加。

主催は中央公民館他4公民館の合同で行われる、『いき
る力をはぐくむ チャレンジキャンプ』とうたわれた、
地域での小中学校生徒を対象に、人と自然にかかわる野外
教育活動の一環。
スタッフは公民館職員、埼玉県キャンプ協会指導員、
埼玉県山岳連盟指導員、ネイチャーゲーム指導員等が
ボランティアで担当し、それぞれの得意な分野での知恵
知識を発揮し、無事にその役割を終了した。
今回も前回同様、参加者はチャレンジキャンプや
ツリークライミングを、充分楽しんでいただけたようだ。

広報委員会・岩井田 正昭 <miwaida@nuu.biglobe.ne.jp>